

北海道余市紅志高等学校 総合的な探究の時間合同説明会レポート

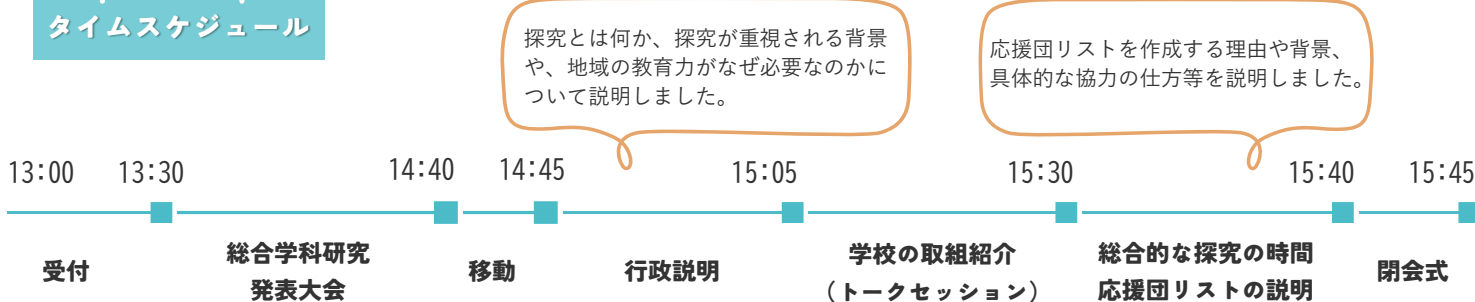
BRIDGE構築事業とは



変化が激しく先の見通しが立ちにくい「VUCA（ブーカ）」時代に対応し、持続可能な社会を創造する子ども達を社会全体で育むため、令和7年度から実施している事業です。

BRIDGE構築事業では、生徒・教員・地域に向け、4つのプロジェクトに取り組んでおり、総合的な探究の時間合同説明会は、「『実社会・実生活と結び付いた課題設定』支援プロジェクト」として実施しています。合同説明会の目的は、**地域の方に探究活動の理解を深めていただき、生徒の探究活動の支援の輪を拡充させる**ことです。

タイムスケジュール



探究活動実践例

余市ワイナリーを支える（農業班）

余市町は日本有数のワイン産業が盛んな町です。しかし、高齢化による従事者の減少や後継者不足など、深刻な課題を抱えています。本班は、こうした現状を踏まえ、地域住民が、地元のワイン産業に一層深い興味をもつようになり、特に人手が必要になるブドウの収穫時期などに、住民が協力して手伝う環境づくりを目指して、探究活動を進めています。その解決策の第一歩として、まずは小学生を対象に、手作りのワインボードゲームを通じて、ワインや地元の魅力を知ってもらう活動を企画・実行しています。小学生から大人へと、地域全体に地元ワインの魅力を広げるために奮闘中です。



学校の取組紹介

トークセッション

トークセッションは、発表を行った余市紅志高校の生徒に、先ほどの発表会についての自己評価をしてもらい、点数を発表してもらうところから始まりました。生徒たちは、「まだできることがあった」という悔しい思いを込めて、自らに厳しい点数を付けていましたが、参加者からは、「自信をもって自分達の活動をしており、とても良かった」など、発表全体に対して**高い評価**をいただきました。

生徒に伴走して探究活動に関わっていた教員からは、「**生徒と関わる回数が増え、生徒が主体的に活動する様子を見てきたことで、生徒の新たな一面を発見することができ、生徒理解につながった。**」との感想がありました。また、生徒からは、「少人数ながらもそれぞれの強みを生かし、**学校外の多様な方々の助けを借りながら活動を進めることができた**」と、チームで取り組んだことへの達成感を語る場面も見られました。

質疑応答

参加者から、「探究活動を通じて地元への愛着や、将来『余市町で働きたい』という意欲が芽生えたのか」という質問が生徒に寄せられました。登壇した生徒は、「全員が地元の企業に就職予定なので、今後は余市町を『**支える側**』として働きたい」と回答していました。他にも、探究活動の対象を小学生に絞った理由について質問があり、生徒から「子どもたちが家庭で親に活動内容を話すことを通じて、間接的に大人の地域住民にも関心をもってもらえると考えた」と説明がありました。

